

研究・調査報告書

報告書番号	担当
542	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Serum urate and its relationship with alcoholic beverage intake in men and women: findings from the Coronary Artery Risk Development in Young Adults (CARDIA) cohort. 男女の飲酒量と血清尿酸値との関係: 若年成人群の CARDIA(Coronary Artery Risk Development in Young Adultscohort)の調査結果より。	
執筆者	
Gaffo AL, Roseman JM, Jacobs DR Jr, Lewis CE, Shikany JM, Mikuls TR, Jolly PE, Saag KG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Rheum Dis. 2010 Nov;69(11):1965-70. Epub 2010 Jun 4.	
キーワード	
CARDIA、若年成人、コホート研究、飲酒量、血清尿酸塩値、アルコール	
要 旨	
目的: 若年男性・女性のコホート研究を用い、年齢が違えば、ビール、酒(スピリッツ)、ワイン、総飲酒量と血清尿酸塩値との関連も違うかを研究する。	
方法: 白人とアフリカ系アメリカ人とでバランス良く構成されたデータで、ベースライン時に 3123 人いた参加者の 20 年間追跡データを使用した。血清尿酸値とビール、酒、ワイン、および総飲酒量との関係を性別ごとに横断研究で調べた。	
結果: 追跡開始時の平均年齢(標準偏差)は 25.1(3.6)歳であった。非飲酒者と比べて、男女ともに血清尿酸値高値と、大量ビール摂取との関連がみられた。この関連は女性で特に顕著で一定していた。より酒の大量飲酒者と、血清尿酸値高値の関連が 20 歳男性の評価でみられた。ワイン摂取はどちらの性別でも血清尿酸値高値とは関連していなかった。総飲酒量は男女共に血清尿酸値高値と関連していた。飲酒量と血清尿酸値との関連の大きさは大きくはなかった(飲酒を控えることにより 0.03 mg/dl/以内)。	
結論: 血清尿酸値高値と、大量ビール摂取との関連は女性で一貫していて、著しかったが、男性でも存在していた。飲酒量に関連した血清尿酸値の増加はわずかであったが、中等量～大量飲酒する若年成人で心血管疾患や痛風などの臨床症状を除外することはできない。	